

数字で見る平成18年度

開館以来、毎年入館者数を増やし、一年間に**778,629**人が未来館を訪れた。

合わせて**249,047**人が三つの企画展（脳!、マンモスからの警告、65億人のサバイバル）を楽しんだ。

海外で**300,000**人以上が未来館オリジナルの企画展（時間旅行展、疾走するファイバー展）に足を運んだ。

実験工房の教室を**277**回ひらき、計**2,863**人が実験に参加した。

全国7カ所、**14,853**人の生徒が「ASIMO理科授業」で先端科学に直に触れた。

のべ**10,519**人の児童・生徒が、未来館と教育機関などが連携したプログラムで科学を学んだ。

6回の科学コミュニケーター研修プログラムに未来館外から**21**人が参加し、一週間コースを修了した。

約**200**人の研究者・技術者が未来館の企画開発に密接に関わった。

ボランティア登録者**905**名は、のべ**70,717**時間の活動で未来館を支えた。

35,275人の友の会会員が未来館を通して科学を楽しんでいる。

ホームページへは年間総数で**12,582,978**件のアクセスがあった。

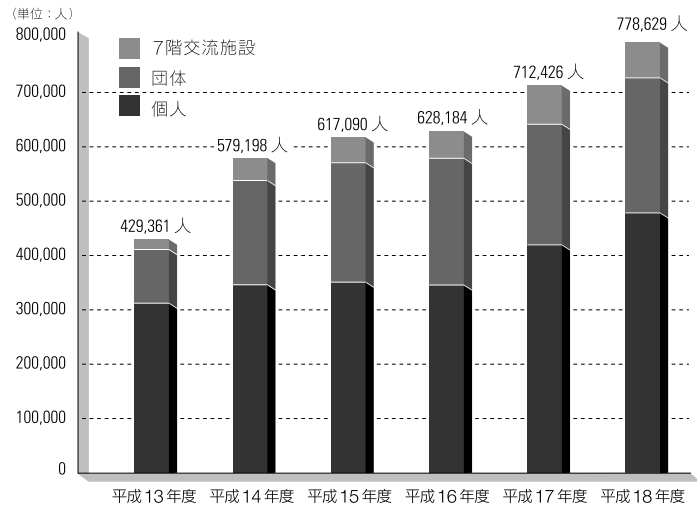
未来館がマスコミに取り上げられた数は**2,268**件にのぼり、

これを広告費に換算すると**20億**円以上に相当する。

来館者データ

■ 開館時から6年間の来館者数 ■

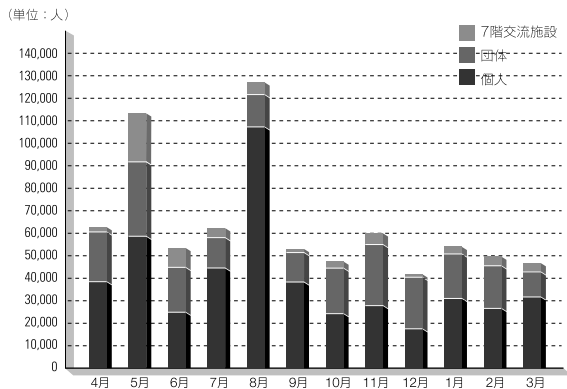
開館以来、毎年増加している来館者数を平成18年度も更新した。増加要因としては、春に開催した『脳!—内なる不思議の世界へ』、夏の『もえる森 とける大地 「マンモスからの警告」展』と、話題性のある企画展を開催したこと、また、これまでの活動の積み重ねにより開館当初から徐々に認知が高まり、恒常的に来館数が伸びていることがあげられる。個人では17年度に比べて約53,000人の伸び、団体においても同様で、約17,000人(411組)の伸びとなった。



平成18年度

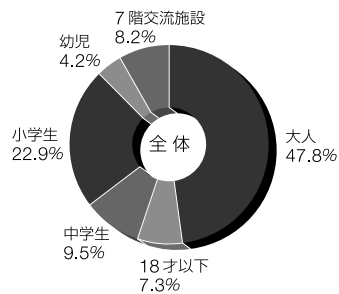
■ 来館者数の内訳(月別統計) ■

企画展『脳!—内なる不思議の世界へ』『もえる森 とける大地 「マンモスからの警告」展』がピークを迎えた5月と8月は、ともに月間来館者数が10万人を越え、歴代1位、2位の数字を記録。社会的な関心に合致し、かつ一般の人々の興味をひくテーマ設定での企画展の開催が大きな効果上げたことがわかる。

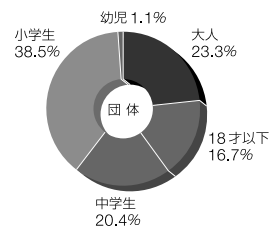
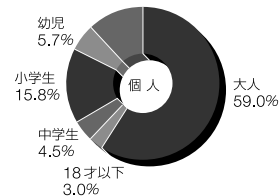


■ 年代別内訳 ■

個人、団体を含めた全体では約半数が大人で、続いて小学生となる。団体では、やはり修学旅行などの学校団体が多くなるため、高校生以下の年代層が大幅に増える。個人では逆に高校生・中学生の来館が伸び悩んでいることが読みとれる。

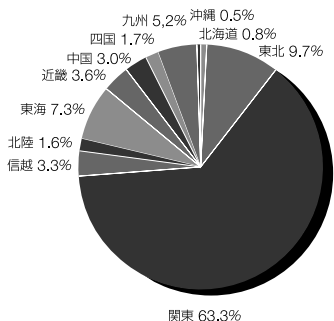


交流施設 11.9%



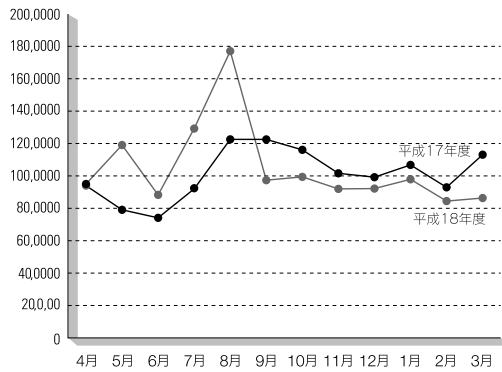
■ 団体来館者における地域別統計 ■

全国各地区からの来館が見られるが、特に関東地区では大人と小学生の団体が多く、全体の60%を超える割合になっている。関東地区以外からは中学生・高校生の修学旅行などでの来館が主になる。



未来館 Web サイト アクセス数集計

ページアクセス数と前年度比較



平成18年度	アクセス数	平成17年度	アクセス数	前年度比較
H18 / 4	950,069	H17 / 4	940,231	9,838
H18 / 5	1,190,741	H17 / 5	790,644	400,097
H18 / 6	882,806	H17 / 6	741,191	141,615
H18 / 7	1,292,237	H17 / 7	919,960	372,277
H18 / 8	1,770,506	H17 / 8	1,225,670	544,836
H18 / 9	973,714	H17 / 9	1,225,389	-251,675
H18 / 10	994,087	H17 / 10	1,160,986	-166,899
H18 / 11	919,815	H17 / 11	1,016,089	-96,274
H18 / 12	921,862	H17 / 12	992,152	-70,290
H19 / 1	979,035	H18 / 1	1,067,874	-88,839
H19 / 2	844,688	H18 / 2	929,545	-84,857
H19 / 3	863,418	H18 / 3	1,131,026	-267,608
合計	12,582,978	合計	12,140,757	442,221

広報活動実績

取材件数

年月	媒体種類						合計
	テレビ	ラジオ	雑誌	新聞	WEB	他	
H18 / 4	12	4	41	110	31	14	212
H18 / 5	9	0	30	79	13	12	143
H18 / 6	9	3	40	86	13	25	176
H18 / 7	10	4	39	101	14	32	200
H18 / 8	28	8	33	162	13	17	261
H18 / 9	9	1	33	95	13	8	159
H18 / 10	8	6	50	74	21	23	182
H18 / 11	10	1	47	97	9	15	179
H18 / 12	13	1	33	105	8	20	180
H19 / 1	9	4	32	229	11	15	300
H19 / 2	6	3	30	84	8	12	143
H19 / 3	7	1	28	63	18	16	133
合計	130	36	436	1285	172	209	2268

広告費換算

年月	媒体種類			合計
	テレビ	雑誌	新聞	
H18 / 4	¥ 38,464,764	¥ 109,498,813	¥ 150,729,813	¥ 298,693,390
H18 / 5	¥ 35,167,928	¥ 5,376,918	¥ 110,793,973	¥ 151,338,819
H18 / 6	¥ 9,689,333	¥ 14,380,517	¥ 23,957,763	¥ 48,027,613
H18 / 7	¥ 2,974,666	¥ 9,494,237	¥ 94,242,355	¥ 106,711,258
H18 / 8	¥ 370,041,409	¥ 13,458,200	¥ 107,746,711	¥ 491,246,320
H18 / 9	¥ 0	¥ 11,754,765	¥ 37,696,910	¥ 49,451,675
H18 / 10	¥ 5,842,734	¥ 11,841,202	¥ 56,798,684	¥ 74,482,620
H18 / 11	¥ 0	¥ 10,177,168	¥ 36,485,563	¥ 46,662,731
H18 / 12	¥ 3,030,000	¥ 19,738,644	¥ 123,315,999	¥ 146,084,643
H19 / 1	¥ 94,350,044	¥ 22,226,038	¥ 159,130,592	¥ 275,706,674
H19 / 2	¥ 166,411,481	¥ 6,283,001	¥ 83,424,687	¥ 256,119,169
H19 / 3	¥ 140,007	¥ 9,740,765	¥ 51,711,123	¥ 61,591,895
合計	¥ 726,112,366	¥ 243,970,268	¥ 1,036,034,173	¥ 2,006,116,807

友の会活動実績

平成18年度友の会会員数
(平成19年3月31日現在)

個人会員	3,039人
家族会員	32,236人(7,780組)
合計	35,275人

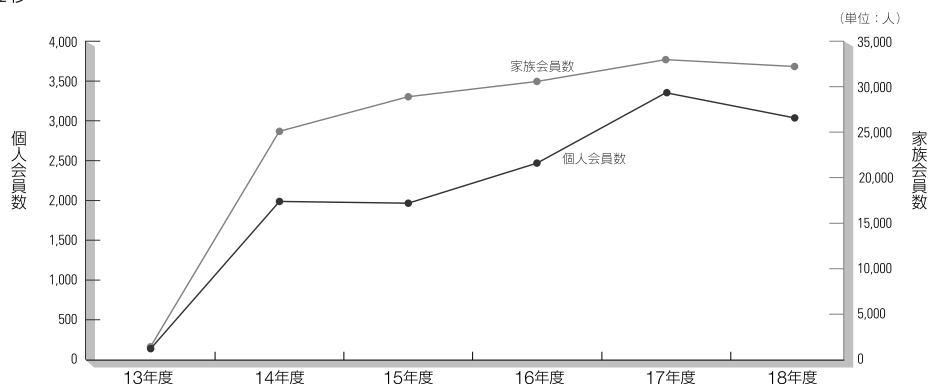
会員数の推移

平成18年度月別会員数

(単位：人、もしくは組)

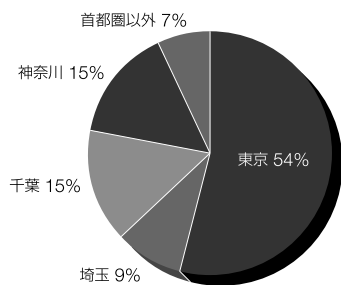
	平成18年										平成19年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
個人会員数	3,385	3,542	3,434	3,467	3,527	3,504	3,409	3,273	3,116	3,170	3,173	3,039	
家族会員数	33,467	34,572	33,228	33,976	36,381	35,710	34,729	33,206	32,318	32,697	32,555	32,236	
(家族数)	7,976	8,261	7,966	8,150	8,737	8,583	8,343	8,008	7,784	7,872	7,853	7,780	
会員総数	36,852	38,114	36,662	37,443	39,908	39,214	38,138	36,479	35,434	35,867	35,728	35,275	

個人・家族会員数の推移

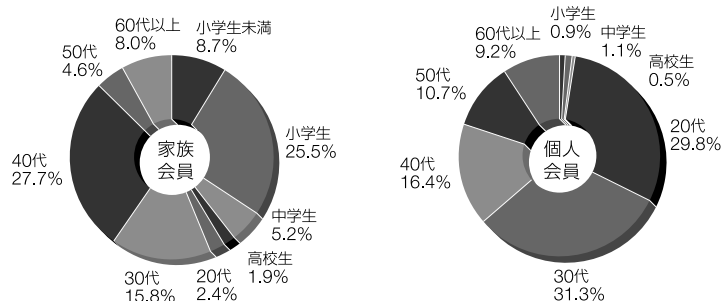


会員の属性

都道府県別会員数



年代別会員数



組織

総館長

石田寛人

館長

毛利 衛

副館長

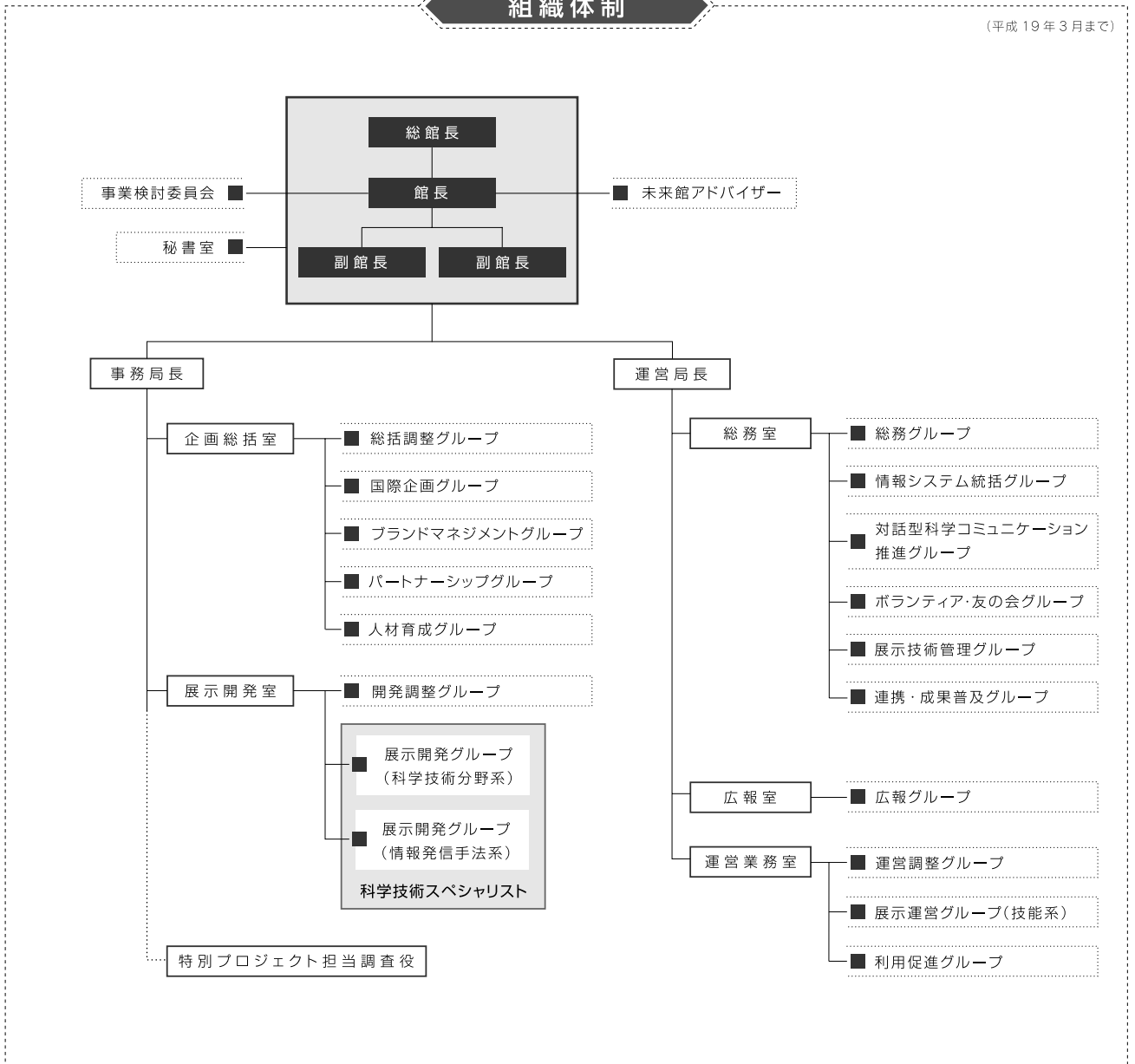
竹内満晴

美馬のゆり (平成18年9月まで)

中島義和 (平成18年10月より)

組織体制

(平成19年3月まで)

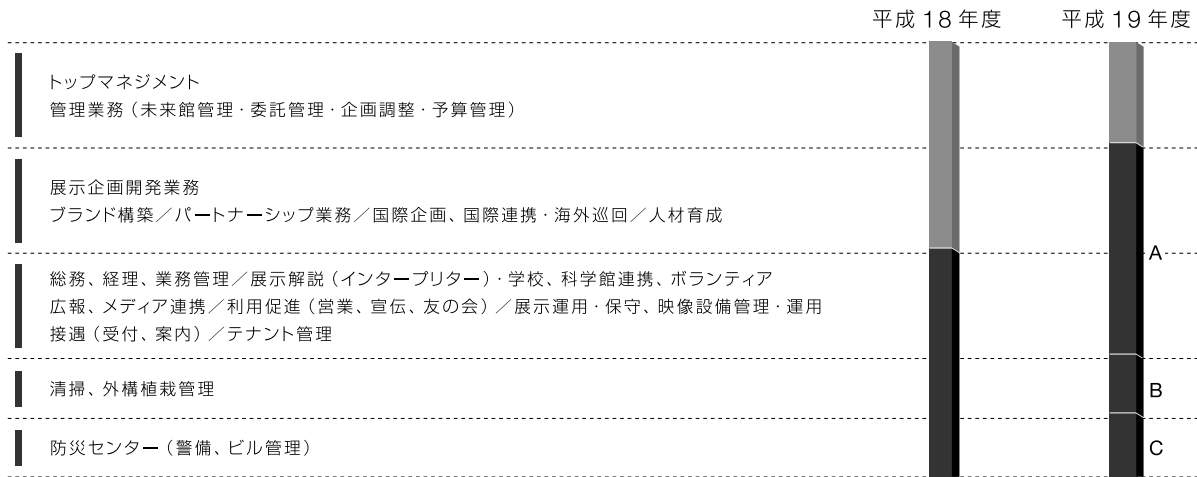


未来館運営の業務委託について

(独) 科学技術振興機構 (JST) は、平成19年度からの未来館の運営に関して、民間委託の業務の範囲を平成18年度よりも広げ、館長などのトップマネジメント業務を除き、展示企画の運営を含めたほぼすべての運営業務を競争入札により委託することとした。

平成18年度と19年度における民間委託業務の範囲は下図の通り。

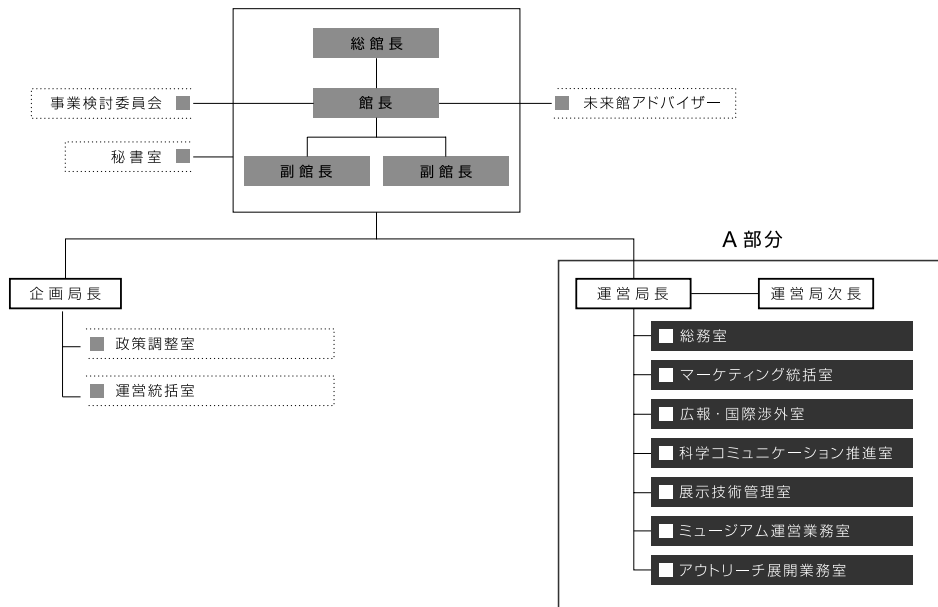
未来館業務



平成18年度中に行われた競争入札の結果、A部分は (財) 科学技術広報財団、B部分は東京ビジネスサービス株式会社、C部分は共立管財株式会社が落札し、平成19年4月1日からは新体制で業務を開始することとなった。平成19年度の新体制は下図の通り。

■ JST
■ 民間委託

平成19年度の新体制図



平成7年度	<p>平成7年11月 科学技術基本法が成立</p>	<p>科学技術創造立国を目指すことを目的とした科学技術基本法が成立した。</p>
平成8年度	<p>平成8年7月 科学技術基本計画が策定</p>	<p>同法の成立を受け、科学技術の振興に関する総合的・計画的な施策を推進するための科学技術基本計画が策定された。魅力ある科学館等の整備とそのネットワークの強化、研究開発成果の公開、科学技術に関する社会の関心を高めるための議論の場の設定等が盛り込まれた。</p>
平成10年度	<p>平成10年12月 「国際研究交流大学村」の建設が決定</p>	<p>文部省、通商産業省、科学技術庁の3省庁(*1)が合同で、東京臨海副都心地区に「国際研究交流大学村」を建設することが決定。科学技術振興事業団(*2)は、最先端の科学技術の展示、展示方法の開発、研究者の交流等を通じて、科学技術の情報を発信していく施設を整備することとなった。 *1：平成13年1月 省庁再編成により文部科学省、経済産業省の2省となる。 *2：平成15年10月 独立行政法人科学技術振興機構となる。以下同じ。</p>
平成11年度	<p>平成12年3月 展示計画・活動方針の検討、館の整備が進行。</p>	<p>科学技術振興事業団は、日本科学未来館のあり方等についての審議を行うため、理解増進新規事業推進室、総合監修委員会を設置し、展示計画、活動方針などについて具体的な検討を重ね、それをもとに館の整備が進められた。</p>
平成12年度	<p>平成12年9月 正式名称を「日本科学未来館」に決定</p> <p>平成13年3月 日本科学未来館の建物が完成</p> <p>平成13年3月 シンボルマークが決定</p>	<p>施設の基本理念を簡潔に表現しているとして、施設の名称を「日本科学未来館」に決定し、公表した。また、総館長に吉川弘之（東京大学名誉教授）、館長に毛利衛（宇宙飛行士）の就任を決定した。</p> <p>「地球と衛星軌道」「細胞分裂」「地球上の様々なネットワーク（人と人、情報など）」「電子の動き」などをイメージさせ、日本科学未来館の展示の4テーマ「地球環境とフロンティア」「生命の科学と人間」「技術革新と未来」「情報科学技術と社会」を表している。（シンボル・マーク・デザイン：廣村正彰）</p>
平成13年度	<p>平成13年6月 展示物第1期工事完成</p> <p>平成13年7月9日 日本科学未来館が開館</p> <p>平成14年3月 展示物拡充工事完成</p>	<p>展示の分野ごとに、専門的見地から内容を監修してもらうため、第一線の研究者を科学技術アドバイザーに委嘱し、推進していた展示物等の整備が完了した。</p> <p>二足歩行ロボットASIMOの展示・実演、「生命の科学と人間」コーナーの改装、防災科学技術研究所のHi-Netからのリアルタイム地震データを利用した展示、スーパーカミオカンデの1/10スケールモデル等の展示物拡充が完了した。</p>
平成14年度	<p>平成14年10月 展示物拡充工事完成</p>	<p>「地球生命と宇宙、40億年の挑戦」（国際宇宙ステーション）の展示が完成した。</p>
平成15年度	<p>平成16年3月 プラネタリウム「MEGASTAR-II cosmos」の導入</p> <p>平成15年度 「時間旅行」展巡回</p>	<p>オリジナルコンテンツ「新しい眺め」を開発し、ドームシアターガイアのコンテンツとして常設化した。</p> <p>初の海外巡回。内容をバイリンガル化し、海外（中国、メキシコ）で開催した。</p>
平成16年度	<p>平成16年7月 日本科学未来館3周年記念式典・名誉館員顕彰制度</p> <p>平成17年1月 ロゴマークの変更</p>	<p>日本科学未来館の開館3周年を記念して「3周年記念式典」を開催した。また、科学技術に対して顕著な貢献をし、かつ日本科学未来館の事業に貢献した研究者を顕彰する「名誉館員顕彰制度」を設立し、ノーベル賞受賞者白川氏、小柴氏らが出席する顕彰式を行った。</p> <p>日本科学未来館のロゴマークを「MeSci」から「MiraiKan」に変更した。</p>
平成17年度	<p>平成17年4月 ブランドプロジェクト開始</p> <p>平成18年3月 スローガンの制定</p>	<p>未来館独自の価値や将来にわたる約束を明文化し、未来館ブランドを構築するためのプロジェクトを開始した。</p> <p>未来館の姿勢を表すスローガン「科学がわかる 世界がかわる」を制定した。</p>
平成18年度	<p>平成18年10月 オフィシャルパートナー第一号が決定 公募により副館長就任</p> <p>平成19年3月 1階「企画展示ゾーン」改修工事完了</p>	<p>株式会社リコーとパートナーシップ契約を締結した。</p> <p>企画展やイベントのスペースとして用いてきた「催事ゾーン」(約800m²)を拡張し、「企画展示ゾーン」(約1,520m²)を設置した。</p>